

8月8日と9日に行われた東京研修は、私にとって、様々なことを学べたとても有意義なものでした。8日は午前中にディレクトフォースがありました。ディレクトフォースの前半では、近藤さんに講演をしていただきました。様々なことをお話ししていただきましたが、私はその中でも「ものづくりとは物語である」という言葉が印象に残っています。私にとって、ものづくりとは「自分の目的に合うものを自分の手で完成させること」です。ものづくりは、あくまで作業であると思っていました。しかし、近藤さんのお話を聞いて、その考えが変わりました。ものづくりとは、自分を主人公として作品が完成するまでの過程を描いた物語であり、ただの作業ではありません。側から見たらただの作業に見えたとしても、作っている人の中では物語ができています。実際にそうとは限らないかもしれませんが、そう考えた方がものづくりを楽しめると思います。また、作品にも心が込められると思います。ですから、私はこれから何かを作る際、作業ではなく、「物語」を作っているのだと思うようにしたいです。

ディレクトフォースの後半では、様々な経歴をもつ方々からローテーションでお話を伺いました。みなさん、とても興味深いお話をしてくださいましたが、私は特に2人目に来ていただいた方のお話が心に残りました。働いている女性の方でしたが、キャリアウーマンといった雰囲気の方で、お話もとても説得力のあるものでした。その方は、「仕事をする際、人前で話すときは自分を強く見せないといけない。」とおっしゃっていました。女性は、性別による格差が少なくなった現代においても、どうしても軽視されがちな面があります。そのような中で、いかに自分の話を聴衆に聞いてもらい、納得してもらうかがポイントとなります。そのためには、自分を強く見せることが大切です。では、どうやって自分を強く見せればいいのでしょうか。その方は、「ピシッとした服装をして、胸を張り、前を向いてハキハキと話すことで、自分を強く見せられる」とおっしゃっていました。「胸を張って、前を向いてハキハキと話す」ということは、小学生のころから発表の機会があるたびに先生方に言われていました。しかし、私はそれを「みっともない発表をしないようにするため」だと思っていました。今回のお話を聞いて、「自分を強く見せる」ように話していると、話している言葉の1つ1つに説得力があることがわかりました。将来仕事をする際、私も人前で話すことが必ずあると思います。そのとき、「自分を強く見せる」ということを意識して、より説得力のあるお話をしたいです。そして、自分が所属する会社や研究所にとって有能な人材になりたいです。

午後からは、企業訪問・座談会をしました。実は、今回の企業訪問では、企業に到着する時間もホテルに到着する時間も遅れてしまいました。早々にして、時間に余裕を持つことがいかに大切かを、身を以て学びました。予定外のことでどうしようと不安になり、メンバーと慌ててしまいましたが、先方に連絡をして、何とか無事にたどり着くことがで

きました。予定外のことでも、しっかりとした対応をできたので良かったです。私は、2人のグループでエスエス製薬成田中央研究所に行ってきました。

始めに、担当の方から研究所について写真や図を使った説明をしていただきました。この研究所はドラッグストアなどで販売されている一般市販薬について研究していて、研究員は約20名いるそうです。これを聞いて、研究者になれる人はほんの一握りなのだと感じました。部署は研究開発部と分析部の2つがあります。研究開発部では、主に成分の調合などをして新薬を開発しており、分析部では、研究開発部が開発した新薬を分析して、安全かどうかや効果がどれくらいかなどを調べています。この2つの部署は互いに連携を取りながら、少しでもお客様に必要とされる薬を作っています。研究所にある機材などはどれもとても高価で、安いものでも数千万円、高いものだと何億もします。震災の時は、逃げることを後回しにして、機材を守ろうと支えていた人もいたそうです。壊れても買い換えることが困難なため、頻繁に点検をして、修理をしながら大切に使用しているとおっしゃっていました。

次にメンバーそれぞれが疑問に思っていたことを質問し、お話ししていただきました。私は、薬剤の研究とは複数人でチームを組んでやるものだと思っていました。しかし、研究をする時はチームを組むのかどうか質問したところ、個人個人でやっているというお話を伺い、とても驚きました。個人個人で研究する事で、自分の用事に合わせて働く時間を調節でき、心に余裕が生まれます。そうすれば、より研究に力を入れることができるのだと思いました。これは、とても大きな利点です。私は、自分が就職する際の条件に、お給料や待遇などを思い浮かべていましたが、時間についても考えた方がいいと思いました。また、研究員になるために高校生のうちに身につけておいた方がいいものについて伺ったところ、学力よりも体力をしっかりつけるべきだとお話しされました。勉強は、高校生のうちからある程度頑張った方がいいですが、大学でもたくさんやることです。また、大人になっても勉強は続きますし、日々の研究は勉強と同じです。しかし、体力は若くて時間のある高校生のうちにしか鍛えられません。研究者の方は、大人になって、体力の重要性が身に染みたとおっしゃっていました。このお話を聞いて、私は体力がないため、少し不安になりました。ですから、体育の授業以外にも自分で積極的に運動するよう心がけようと思います。将来どんな仕事に就いても、体力はあるに越したことがないとわかったからです。今回の企業訪問で、私は将来の夢のために何を頑張ればいいのか、何が必要なのかなどを知ることができました。お話をいただいた研究員の皆様にも励ましていただきました。将来への道筋が少しずつ開け、明るく照らされるような、素晴らしい体験でした。一生に一度しかないかもしれないような貴重な時間を、楽しく意義のあるものにできて良かったです。

その後の座談会では、二高卒業生の現役東大生や東大卒業生を中心とした先輩方にお話しをしていただきました。みなさん、とても親切で丁寧な口調で話してくださいました。

そのしっかりした態度や口調は、流石エリートだなあと思いました。お話を聞いていて、東大の最大の特徴は、学部を決めて入試を受けるのではなく、3年生のときに学部を決めるということだとわかりました。このシステムによって、自分が本当にやりたいことは何か、自分がやりたいことができる学部は何かということがしっかりとわかった状態で学部を選べます。だから、学部に分けられた後で、やりたいことができないというような最悪の状態になってしまうことを回避できます。また、学部に分けられるときは、成績順で行きたい学部に行けるかが決まります。そのため、他の大学に通う生徒とは違い、東大生は入試を突破した後も勉強を続けているそうです。ですから、学部に分けられるまでの2年間で他の大学と大きな差をつけられることも重要なポイントだと、先輩がおっしゃっていました。このシステムは、将来の夢に近づく上で、自分自身を高められる大きな利点だと思いました。

また、先輩に大学受験のときにどんな勉強をしていたのか質問したところ、ひたすら学校の授業の復習をしていたと言われました。二高の授業はとてもレベルが高いため、授業の内容を完璧にすれば心配ないと言われ、驚きました。私は、今自分がどんな勉強をすればいいのかよくわかっていませんでした。しかし、先輩のお話を聞いて、これからは、まず学校の授業を完璧にできるように勉強してみたいと思います。そして、私は東大生はガリ勉というイメージが強かったのですが、そのようなことはないということを今回の座談会で感じました。ガリ勉だからレベルの高い大学に通って勉強しているという訳ではなく、それぞれが将来の目標をしっかりと持っているから、東大で学んでいるのだと思いました。現役の東大生とは初めてお話ししましたが、私が持っていた東大のイメージが実際とは大きく異なっていたことがわかり、とても楽しい座談会でした。

9日は1日かけて、東大見学をしました。始めに、1・2年生が勉強をしている駒場キャンパスに行き、東大生の方に案内してもらいました。門を入るとすぐに、本郷キャンパスの安田講堂によく似た1号間があり、この建物は国の重要文化財に指定されているとの説明がありました。とても立派で堂々とした建物なので、写真を撮っている生徒もたくさんいた。駒場キャンパスは、最近建てられた新しい自習室もあり、学生が勉強するための施設が整っていました。また、とてもたくさんの蔵書を持っている図書館もあり、中に入らせていただきました。図書館は、大量の本棚が並んでいる区画と閲覧室に分かれていて、閲覧室は個別のブースが並んでいました。今回は二高生の貸切でしたが、普段はここで勉強する学生がたくさんいるそうです。特に試験前は、空調が効いてきて集中できるため、多くの学生が図書館に集まり、閲覧室は満員になると言っていました。図書館の見学が終わった後は、ワークショップをして、先輩方のプレゼンテーションを聞きました。ワークショップでは、何枚かのプリントを使って、自分の進路を見つめ直しました。将来就きたい仕事から逆算して行って、今何をすればいいのかをそれぞれ考えました。この活動を通して、私は、自分の見通しの甘さを思い知りました。プリントの枠がなかなか埋まらなか

ったからです。今までは、その場その場で他人に指示されたことをやってきました。しかし、高校生になった今、誰かが指示してくれる時間は終わってしまいました。これからは、自分で将来のことまで見通して行動しなければいけません。私は、自分の現状をもう一度正確に認識し直し、自分のやるべきことを自分で考えられるようになりたいです。

お昼を食べるために一旦解散した後、次は3・4年生が勉強している本郷キャンパスに集合しました。本郷キャンパスは、安田講堂をはじめとした煉瓦造りの古い建物が並んでいて、その姿には圧倒させられました。日本一の大学としての風格があり、見ていてとても趣深かったです。生徒は文系と理系に別れ、理系は農学部についての説明を受けました。とても面白そうなお話で、農学部に興味を惹かれました。その後、研究室を訪問し、最後に個別相談会をしました。個別相談会は、8日の座談会と同じように先輩方に質問をしたりして、和やかな雰囲気での終わりました。楽しい時間はあっという間に過ぎていくもので、東大見学の時間は長いようで短く感じました。しかし、それだけ意義のあるものにできたのでよかったです。

今回の東京研修では、自分の将来を見つめ直す機会がたくさんありました。たくさんの人とお話しして、様々な意見に触れたことで、自分の視野が広がったような気がします。今回学んだことを忘れず、これからも自分から積極的に動き、将来を見つめたいです。最後になりましたが、今回の東京研修に協力していただいた、先生方や先輩方をはじめとする全ての人に感謝したいと思います。貴重な機会をどうもありがとうございました。